

平成30年度 第1回総合教育会議

平成30年8月24日
午後3時から
31号会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

1) 飯山市教育大綱の進捗状況について

【資料1】

2) 飯山市における小学校英語教育の現状と推進について

【資料2】

3) 長野県の高校改革実施方針(案)概要について

【資料3】

4 そ の 他

5 閉 会

平成30年8月24日

飯山市における小学校英語教育の現状と推進について

飯山市教育委員会

1 本年度の目標

- (1)小学校教員(以下 HRT)には、授業づくりの主体者として指導力の向上を図るとともに、ALT には、小学校英語学習指導の基本的な指導技術の理解と向上を図る。
- (2)児童の英語能力と学習意識についての実態把握を今後の授業改善に生かす。
- (3)英語指導のつながりを重視し、小中連携の充実を図る。
- (4)学習指導要領の全面実施に向け、次年度の「外国語活動」の方向を定める。

2 本年度の実施内容

- (1)英語教育指導主事(以下 CET)の授業参観による HRT 及び ALT の指導力向上

・授業参観終了後、CET と ALT とによる「授業の振り返り」の実施

* 訪問回数(1学期)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
4月	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
5月	1	1	1	2	3	1	2	1	3	15
6月	1	3	2	1	1	2	2	1	2	15
7月	1	1	1	1	1	1	2	1	1	10
計	3	4	4	4	5	4	7	3	6	41

- ・授業指導力における学校間格差あり
- ・HRT による、事前の「授業の目標・流れ」、事後の「授業の振り返り」の CET への送信
- ・CET による、校長、教頭、授業者への「授業のまとめ」の送信 ***資料1**

- (2)各種調査の実施と、その分析結果の学力向上・授業改善への活用

- ・小学校6年生のフイージビリティ(実現可能性)テストへの参加
(11月予定)
- ・小学校3～6年生の「意識調査」の実施 (9月予定)



Sage 常盤小 6年生

- (3)小中高における英語指導連携の推進 ー縦(小中高)と横(小学校間)の連携ー

- ・「飯山市外国語・英語科学習指導連絡会」の実施(5月28日) 木島小学校
6学年担任小林教諭, ALT Casey の授業参観と授業研究会
各校における指導上の課題と解決策等の提案 ***資料2**

- ・「飯山市外国語活動・英語科学習指導研究委員会」の月1回の実施
各学校の課題、悩み等の情報交換と解決策の共有
9月から開始する3, 4学年の時間割の研究
外国語活動の指導方法等の研修

(4)次年度の「外国語活動」の方向性の研究

① 飯山市外国語活動・英語科学習指導研究委員会にて、移行措置期間の「外国語活動」についての研究推進

- ・先行実施の場合 3, 4学年・・・35時間, 5, 6年・・・70時間
- ・現状継続の場合 3, 4学年・・・15時間, 5, 6年・・・50時間 の選択

② 文部科学省が平成 30 年 5 月 8 日に発表した全国調査結果より

- ・小学校 3,4 年生 先行実施 35%(H30) → **54%(H31)**
- ・小学校 5,6 年生 先行実施 29%(H30) → **63%(H31)**

* 前(移行措置) / 後(先行実施)

学年	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	合 計
現小2	0	15/35	35	70	70	140	140	470/490 -20
現小3	15/35	15/35	70	70	140	140	140	590/630 -40
現小4	15/35	50/70	70	140	140	140		555/595 -40
現小5	50/70	50/70	140	140	140			520/560 -40
現小6	50/70	140	140	140				470/490 -20

③ 「先行実施」のメリット・デメリット

* メリット

- ・新学習指導要領に示された学習内容のほとんどを学習できる。
- ・時数が多くなることで、時間と時間の間隔が狭くなり、児童の記憶が残り指導しやすくなる。
- ・英語学習が深まるとともに、コミュニケーションへの意欲が高まった状態で中学校へ進級できる。
- ・授業の機会が増加し、教師の授業スキルが向上する。
- ・1年先取りすることで、指導内容を十分理解したり、指導方法の課題が明確になったりし、全面実施に向けて確実に準備ができる。
- ・全国的な流れは「先行実施」の傾向が強く、1時間でも多く外国語学習にふれさせることが重要である。
- ・授業の機会が多くなることで、教師の外国語学習への関心が高まる。



Casey 木島小 5 年生

* デメリット

- ・外国語学習に苦手感のある子どもが精神的に落ち込む。
- ・時数が増加することにより、さらに多忙感が増す。
- ・指導に苦手意識のある教師にはストレスになる。

④ 時間割の工夫・・・ALT との事前事後のミーティングの確保

⑤ 学習評価の研究 評価内容と方法について、生徒指導要録の記載について

⑥ 全面実施に向けて 「年間指導計画」「Can Do List」等の作成

3 小学校外国語活動の現状と課題

(1)HRT の指導力、意識等

- 授業づくりの主体者として努力し、楽しい英語学習となっている学級が多い。
- 多少、自分の英語運用力に自信がなくても、英語使用者としてのモデルとなり、積極的に授業を進めている HRT が多い。
- 年齢の高い HRT も積極的に授業づくりに努力している。

○教育機器(ICT 等)の活用が積極的に行われ、児童の学習意欲を高めている。

○無理をせず、日本語だけで授業を進めてもよいとし、次第に Classroom English を使うようにしてきている。

●自分自身の英語運用力に自信がなく、ALT 中心の授業のままになっている。

●前回の授業で確認された改善点が生かされず、変化していこうとする意欲がやや乏しい。

●ゲームを取り入れた活動では、英語使用を忘れ、日本語だけになったり、勝負にこだわったりする場面が時々見られる。



Casey 木島小 5 年生

(2)児童の学びの様子

○「英語を学ぶことが楽しい」という意識を大切にした学びになっている。

○英語を使う楽しさを味わっている児童が多く見られる。

●生徒指導の大変な学級では、英語学習が成り立たない場面が見られ、今後の英語力向上が危惧される。

●友達同士のコミュニケーション活動をする際に、初めから取り組まなかったり、限定的な人間関係の中で行ったりする児童がみられる。

(3)学校の「外国語活動」の研究推進 十分…A、まあまあ…B、 厳しい…C

○学校間格差

(ア) 評価カード、学習ファイルが用意され、活用が十分されている学校

(イ) CET の授業参観中に参観する教職員のいる学校(長頭を含む)

(ウ) CET との懇談を求める学校(長頭を含む)

(エ) 生徒指導的に安定し、落ち着いて授業が成立する学校

○校長、教頭のリーダーシップ

(オ) 校内研修が充実し、学校体制が整っている学校

	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校
(ア)	B	B	C	A	A	B	A
(イ)	C	C	B	B	B	B	A
(ウ)	B	C	A	B	B	B	A
(エ)	A	C	C	B	B	A	A
(オ)	C	C	C	A	B	B	A

(4)夏季休業中に外国語学習に関わる研修を実施した学校 「1校もなし」

(5)ALT 指導技術の向上

○授業参観後、VTR(ipad使用)の視聴を通して指導技術の向上を図った。

○概ね指導力が向上し、安心してみていられる状況になっている。

○児童と同様にALTも「smile」「gesture」「eye contact」「clear voice」を心がけるようにしており、きちんと実践できている。

○生徒指導的に厳しい児童にも、熱心にかかわり子どもの目の高さで接することができている。

○授業の打ち合わせの時間がなかなか確保できない中、献身的に授業準備をし、短時間で HRT と打ち合わせし、授業に臨んでいる。

●児童に理解できる工夫として、表現を言い換えること、VTR や絵、写真等を使用すること等の技能をさらに向上させる。

- 文字を使って指導する傾向があるので、できる限り口と耳(oral-aural)を使った指導を心がけるようにしている。

4 今後の方向

(1)2学期の実施内容

- ・新しく配置された2名のALTの指導を中心に、ALTの指導力向上を図る。

①Patrick … 飯山小 ②Juliet … 泉台小・常盤小

◇ Casey

小学校	学期	小3 1回/週	小4 1回/週	小5 2回/週	小6 2回/週	ALT配置持ち時数		日/週
						1学期	2学期	
秋津小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		1日/週
	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	2日/週
○木島小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		1日/週
	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	3日/週
○飯山小	1学期	0	0	6(60)	4(40)	10 (100)	0	3日/週
						18 (180)	12 (180)	

◇ Patrick

小学校	学期	小3 1回/週	小4 1回/週	小5 2回/週	小6 2回/週	ALT配置持ち時数		曜日
						1学期	2学期	
○飯山小	2学期	2(30)	2(30)	6(90)	4(60)		14 (210)	5日/週
							14 (210)	

◇ Juliet

小学校	学期	小3 1回/週	小4 1回/週	小5 2回/週	小6 2回/週	ALT配置持ち時数		日/週
						1学期	2学期	
常盤小	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	2日/週
○泉台小	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	3日/週
							12 (180)	

◇ Sage

小学校	学期	小3 1回/週	小4 1回/週	小5 2回/週	小6 2回/週	ALT配置持ち時数		日/週
						1学期	2学期	
常盤小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		1日/週
泉台小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		1日/週
東小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		1日/週
	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	2日/週
○戸狩小	1学期	0	0	2(20)	2(20)	4 (40)		2日/週
	2学期	1(15)	1(15)	2(30)	2(30)		6 (90)	3日/週
						16 (160)	12 (180)	

- ・9月より3,4学年が外国語活動の授業を開始することに伴い、3,4学年の授業を重点的に授業参観し、HRTを支援する。
- ・ALTの2名増により、全体では1学期までの週34時間から週50時間(年間340→750)へと担当時間数が増加、3年生から6年生のすべての英語の授業にALTが参画できるようになる。
- ・「意識調査」を実施し、その結果分析と授業改善の方向を各校に提案する。
- ・小学校6年生のフイージビリティ(実現可能性)テストを実施する。
- ・次年度に向けた「外国語活動の方針」を作成し、10月の市校長会に提案する。
- ・各校の研修会や「外国語活動」の授業公開に参加し、ともに研修を深める。

(2)授業改善の方向

- ・「英語の学習が楽しい・好きだ」と思える児童生徒を育成する。
- ・「活動(ゲーム)あって、学びなし」にならないように、活動のねらいをしっかりと決め出す。
- ・「聞くこと」を十分行うとともに、発話練習等を丁寧に行う。
- ・1時間の中で定着しなくても、数日後、数週間後に定着していけばよい。スパイラルに定着をめざす。
- ・文字を使いすぎない。
- ・チャンツを使い、英語リズム、強弱等を身につける。
- ・1時間の学習のメニューを黒板に表示し、子どもたちと確認する。

(3)訪問計画にあたって意識すること

- ・飯山市の子どもたちの「外国語の学力向上」は大きな課題となっていること
- ・日常の授業の向上をめざすこと

(4)次年度以降に向けての準備

- ・次年度に向けて、年間指導計画の作成
 - ・教科書採択決定後、Can Do List の作成
 - ・次年度実施予定の「全国学力調査」の英語科受検のための準備(中学校)
 - ・指導力向上のための教職員向けの研修の実施
 - ・先進校・先進地域への授業参観及び研修
 - ・ALT の新たな活用方法の研究
- 例：児童生徒向け 長期休業中の「聞く・話す能力の向上」研修



東小3年生 Singing